

発見を呼ぶ

特集

謎が

大阪市内
5ミュージアムの
スケジュール&トピックス
12月-2月
2018-2019

〈洛中洛外図〉右隻部分
(大阪市立美術館蔵・田万コレクション)

文化庁
平成30年度 文化庁 地域の美術館・歴史博物館を中核としたクラスター形成事業

※金額表記のない展示などは、常設展示観覧料でご覧いただけます。
※すべての施設は、中学生以下・大阪市在住の65歳以上の方(一部、特別展を除く)、障がい者手帳等をお持ちの方は無料です。
※団体割引などがある場合があります。詳細は各施設にお問い合わせください。

	2018年 12月	2019年 1月	2月
大阪歴史博物館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※特別展会期中の金曜日は8:00PMまで ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 火曜(祝日の場合は翌平日)、 年末年始(12/28~1/4) 常設展示観覧料 / 大人600円 高校生・大学生400円 http://www.mus-his.city.osaka.jp/	 重要文化財 長原高廻り2号墳の船形埴輪 (文化庁蔵・大阪歴史博物館保管)	1/26-3/17 特別展 はにわ大行進 —長原古墳群と長原遺跡— 平野区に埋もれる長原古墳群の埴輪が一堂に会し、そこに葬られた人々が暮らした長原遺跡を紹介します。 大人1,000円、高校生・大学生700円	大阪市中央区大手前4丁目1-32 tel. 06-6946-5728 
森の宮遺跡出土元住吉山I式土器 (大阪文化財研究所保管)	1/23-3/18 特集展示 森の宮遺跡と河内地方の縄文土器 森の宮遺跡から出土した縄文土器と、大阪歴史博物館が収蔵する河内地方の縄文土器を比較展示します。		
大阪市立自然史博物館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM (11月~2月は4:30PMまで) ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合は翌平日) 年末年始(12/28~1/4) 常設展示観覧料 / 大人300円 高校生・大学生200円 http://www.mus-nh.city.osaka.jp/	12/15-1/27 テーマ展示 ジュニア自由研究・標本ギャラリー 小・中学生、高校生のみなさんが作った生き物や岩石・化石の標本、および生物・地学分野の自由研究を展示します。	 過去の展示の様子	大阪市東住吉区長居公園1-23 tel. 06-6697-6221 
大阪市立東洋陶磁美術館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、 展示替期間(12/26~12/7)、 年末年始(12/28~1/4) 右記の料金で常設展も含め、 館内の展示すべてをご覧いただけます。 http://www.moco.or.jp/	12/8-2/11 企画展 オブジェクト・ポートレイト Object Portraits by Eric Zetterquist 写真家エリック・ゼッタクイスト(1962~)の日本初個展として、当館の所蔵品を撮影した34点の作品と、被写体となった陶磁器を展示します。 一般600円、高校生・大学生360円	 エリック・ゼッタクイスト 《青磁劃花 葉文 八角水注》	大阪市北区中之島1-1-26 tel. 06-6223-0055 
大阪市立東洋陶磁美術館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、 展示替期間(12/26~12/7)、 年末年始(12/28~1/4) 右記の料金で常設展も含め、 館内の展示すべてをご覧いただけます。 http://www.moco.or.jp/	12/8-2/11 特集展 高田コレクション・尾形コレクション ペルシアの陶器 一色と文様 高田コレクションを中心とした約30点の作品により、ペルシア陶器の色と文様の多彩な展開を紹介します。	 撮影・大田知弘 青磁劃花 葉文 八角水注 (大阪市立東洋陶磁美術館蔵)	
大阪市立美術館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合は翌平日、 ただし12/25は開館) 年末年始(12/28~1/1) コレクション展観覧料 / 一般300円 高校生・大学生200円(特別展は別料金) http://www.osaka-art-museum.jp/ ◎2019年1/14まで 特別展 ルーヴル美術館展 ◎2019年2/16~5/12 特別展 フェルメール展	12/16-3/24 コレクション展 都市を描く—洛中洛外図と名所図会— 京都を俯瞰して描いた「洛中洛外図」と、名所をより詳細に紹介した「名所図会」。描かれた都市の諸相をお楽しみください。	 《洛中洛外図》右隻部分 (大阪市立美術館蔵・下村裕氏寄贈)	大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内) tel. 06-6771-4874 
大阪市立美術館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合は翌平日、 ただし12/25は開館) 年末年始(12/28~1/1) コレクション展観覧料 / 一般300円 高校生・大学生200円(特別展は別料金) http://www.osaka-art-museum.jp/ ◎2019年1/14まで 特別展 ルーヴル美術館展 ◎2019年2/16~5/12 特別展 フェルメール展	12/16-3/24 コレクション展 啓蟄! 考古遺物コレクション 土の中から顔を出した考古遺物は、いわば歴史の証言者。伝世品とはまた違った魅力を味わってください。		
大阪市立美術館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合は翌平日、 ただし12/25は開館) 年末年始(12/28~1/1) コレクション展観覧料 / 一般300円 高校生・大学生200円(特別展は別料金) http://www.osaka-art-museum.jp/ ◎2019年1/14まで 特別展 ルーヴル美術館展 ◎2019年2/16~5/12 特別展 フェルメール展	12/16-3/24 コレクション展 節句を彩る—人形と漆工— 雛人形をはじめとして、京都を中心に製作された人形を展示。同時に武者人形や節句にちなむ漆工品もご紹介します。		
大阪市立科学館 開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※プラネタリウム最終投影は4:00PMから 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合は翌平日) プラネタリウム観覧料金 / 大人600円 高校生・大学生450円 3歳以上中学生以下300円 http://www.sci-museum.jp/ ◎2019年3/30に リニューアルオープン予定	リニューアルのため 休館しています 大阪市立科学館は、プラネタリウムのリニューアル、新展示の製作導入、館内の改修工事などを行うため、12月から全館休館中です。みなさまにご迷惑をおかけすることをお詫び申し上げます。リニューアルオープンは、2019年3月30日を予定しています。		大阪市北区中之島4-2-1 tel. 06-6444-5656 

謎
その1

金色の雲を 描く理由は？

大阪市立美術館 コレクション展「都市を描く—洛中洛外図と名所図会—」

京都の名所と町のにぎわいを描いた洛中洛外図屏風。その多くは、室町時代後期から江戸時代にかけて制作され、百数十点が

現存するという。「洛中洛外図は圧倒的な情報量の多さが面白さの一つ」と学芸員の秋田達也さん。右隻（東側）だけでも、鴨川、清



《洛中洛外図》右隻（下村裕氏寄贈）奥が東山の山並み、真ん中に鴨川を挟んで手前に一条（左）から五条（右）あたりの町並みが描かれる。同じ洛中洛外図でも、表紙掲載の作品と印象がかなり異なる。作風の違いに着目して見るのも面白い。

Information

都市を描く—洛中洛外図と名所図会—

近世の都市を説明的に紹介する「洛中洛外図屏風」と「名所図会（冊子）」を展示。町並みや風俗など、今と昔を比べてみよう（P8参照）。

水寺や三十三間堂、知恩院に南禅寺、内裏と上京の町、祇園会（怒）と下京の町など、現在でもポピュラーな名所や行事が描き込まれている。これらの名所を際立たせるうえで、欠かせないのが「金雲」。金箔または金泥で表現され、漫画のコマ割りのような役割を果たし、大きさや位置関係のデフォルメを違和感なく見せている。もし金雲なしに京都のすべてを描こうとすれば、一つひとつの絵は非常に小さくなってしまふ。省略している部分を金雲で

隠すことによって、はじめて「ひとつながりの絵」として構成できるのだ。もちろん、屏風を豪華に見せる視覚的な効果もある。都市を俯瞰して描かれた洛中洛外図に対して、名所をクローズアップして版画と文章で紹介するのが「名所図会」。いわば、江戸時代の観光ガイドブックである。「今回のコレクション展では、写実的な絵と由緒来歴が記された名所図会、洛中洛外図を照らし合わせて見るのも興味深いですよ」と秋田さん。描かれた名所を観光するのも楽しもうだ。

謎
その2

今からどう入る？



大阪市立美術館 コレクション展

「節句を彩る—人形と漆工—」

まさに漆黒の闇のなかで、右手に松明を掲げ、左手には弓を握りしめる源頼政。急ぎの用ありと見受けられるが、こんな夜更けにどちらへ？「紫宸殿の屋根に、不気味な声で鳴く怪物がいて、帝が病に伏してしまつたのです。そこで弓の達人だった頼政が怪物退治に呼ばれたんですね」と、学芸員の菊地泰子さん。頼政が矢を射かけると、

悲鳴を上げて落ちてきたのは鶴。頭は猿、胴はたぬき、手足は虎で尾は蛇という、おぞましくもミクスチャーな怪物だ。ところで、頼政の勇姿を美しい詩絵で描いたこのアイテムは何だろうか？「印籠です。桃山時代には、武家の男性を中心に装身具として腰に下げられていました。これは五段重ねになっていまして、丸葉入れとしても用いられたようです。蓋を開くと、金粉を蒔いた豪華な梨子地が現れた。「文武両道に秀でた頼政にあやかりたいと願った武士が、身につけていたのかもかもしれませんね」。



《源三位頼政の鶴退治詩絵印籠》
梶川作 / 銘（カザールコレクション）

Information

節句を彩る—人形と漆工—

桃の節句にちなんだ雛人形のほか、端午の節句で飾られる武者人形なども展示。「鶴退治」の印籠は節句にちなむ漆工品として展示される（P8参照）。

大阪市立美術館 コレクション展

「啓蟄！考古遺物コレクション」

すべての煩惱を打ち砕き、魔を払う象徴とされる密教の法具・独鈷杵。祈禱などの時、僧侶はこの中央部を握って用いる。平安時代後期につくられ、お寺で使われていたはずのだが、鳥取・倉吉市で出土したと伝わる。土に埋まっていたのか、それともわざわざ埋めたのか？「後者である可能性もなくはありません」と学芸員の児島大輔さん。「寺院の建立の際に、土地の神を鎮め

るため、鎮壇具として埋めたというケースも考えられますね」。いずれにしても約8000年前の遺物である。表面を覆っていたはずの金箔は落ちて、剥き出しになった銅から青緑色のサビが浮いている。これがなんとも趣き深い。「古いものを好きな人は、サビを愛することが多くて。日本人には、ほどよい錆び方をしたものに価値を見出す感覚がどこかにあるのでしょうかね」。きらめきを残しつつ、柔らかなサビをまとう考古遺物には、ほのかな色気が漂っている。

謎
その3

なぜ土の 中から？

Information

啓蟄！考古遺物コレクション

土の中から顔を出した考古遺物は、いわば歴史の証言者たち。人の手から手へと伝わった伝世品とはまた違った味わいを確かめてみよう（P8参照）。



《金銅 独鈷杵》（田万コレクション）

謎
その4

何の写真？



東洋陶磁美術館
企画展「オブジェクト・ポートレイト」



エリック・ゼッタクイスト
《青磁 八角瓶》2016年



エリック・ゼッタクイスト
《白磁透彫 蓮花文 盆台》2016年

コントラストの強さとは裏腹に、柔らかな線と図形。実はこれ、古陶磁の「肖像」を捉えた写真作品である。ニューヨークを拠点に活躍するアーティストであるエリック・ゼッタクイスト氏が、2016年に東洋陶磁美術館にて撮影・制作した。被写体となった陶磁器と見比べてみよう。《青磁 八角瓶》では、瓶の陰影の中に線を見出し、山水画のように表現されている。《白磁透彫 蓮花文 盆台》をはじめ、輪郭や表面に現れる陰影のラインと写真が一致する感覚が楽しい。

「面白いことに、一度ゼッタクイストの作品を経験すると、陶磁作品から同じような線や空間を抜き出してみたくなるんですよ」と学芸員の宮川智美さん。水注の頸部と注ぎ口の空間を抜き出した作品などもあり、それを見た後はあらゆる水注でその見方を試したくなる。

今回の企画展では、写真作品と共に被写体となった陶磁作品も展示される。現代的なゼッタクイストの表現と、世紀を越えて伝わる陶磁を、自らの視線でつないでみてほしい。



青磁 八角瓶
(南宋時代/12~13世紀/官窯)
住友グループ寄贈(安宅コレクション)
撮影・六田知弘



白磁透彫 蓮花文 盆台
(朝鮮時代/16世紀)
住友グループ寄贈(安宅コレクション)
撮影・六田知弘

Information
大阪市立東洋陶磁美術館
「オブジェクト・ポートレイト」は、日本で初めてゼッタクイストの作品を紹介する企画展。被写体となった作品と見比べると、陶磁の見え方が変わるかもしれない(P8参照)。

森一鳳《雨中藻刈船之図》



Information
大阪歴史博物館
2018年12月~2019年2月まで、大阪歴史博物館9階の「町人の文化 町人の学問・大坂の芸術」の中で展示される。年末年始、節目のタイミングにめづたい絵で賑を担ぐのもいいのでは。

謎
その6

モチーフの真意は？

大阪歴史博物館
「森一鳳筆 雨中藻刈船之図」
「森狙仙筆 桃に猿図」

雨降るなか、藻を刈る人が舟を出している。淡い水色のトーンが涼しげだから、夏の掛軸？ と思いきや、この絵は「めでたい」というからビックリ。「藻を刈る」が「儲かる」に通じるうえに、絵師の名は森一鳳。これを「儲かる一方」と解き、しかも舟の背景にあるのは膳所城。「ぜぜ」銭が儲かる一方と解釈する人までいたらしい。そうなるともはや、涼しげどころか欲深げにすら思われてくるから不思議だ。

「森一鳳は大阪で名を成した森派の三代目です。流祖の狙仙の十八番は動物画。やはりおめでたい絵で大変人気を博しました」と学芸員の岩佐伸一さん。「猿猴」を「侯」と解き、猿を大名に見立てたという。「猿の絵を飾れば立身出世によい。長寿の象徴の桃を持たせることで、さらに縁起がよい絵柄というわけです」。なるほど！



森狙仙《桃に猿図》

謎
その5

なぜ大きいのか？

大阪市立自然史博物館
「海にすむ大きな生物」

地球の巨大生物の多くは海の中で暮らしている。例えばナガスクジラは最大全長25m以上、シロナガスクジラは30m以上。地球上、最大の脊椎動物である。なぜこんなに大きくなるのだろうか？ 「海の生物すべてが大きくなるわけではないのです」と学芸員の石田惣さんは言う。「水中では浮力が働き、重力が軽減されます。このこ

とが、ある生物について大きくなる方向に進化する可能性を高めると考えられます」。自然史博物館には、世界最大のカニ・タカアシガニや世界最大の二枚貝のオオジャコなどが展示されている。体は大きいけれど、主食は小さなプランクトンということも……。オオジャコは、体内に共生させた褐虫藻類から、光合成でつくりだす養分をもらっています。まさかの地産地消！ 海の大きな生物の多様すぎる生きざまにも目を向けてみよう。



Information
大阪市立自然史博物館
「海にすむ大きな生物」は、大阪市立自然史博物館2階第3展示室「海は生命のふるさと」にて展示されている。1/12(土)、13日(日)は、子どもワークショップ「はかってびっくり!大きないきもの」を開催。両日とも11:00AM~12:00PM、1:30PM~3:30PM、参加費無料(入館料は必要)。



謎
その7

なぜ船形の埴輪が？

大阪文化財研究所
重要文化財「船形埴輪」

船の両端が反り上がる、勇壮なフォルムの4世紀末の船形埴輪。大阪市平野区の長原古墳群から出土した。海のない平野区で、なぜ船形の埴輪が？

「古墳時代、河内地方は草香江と呼ばれた湖を介して海とつながっていたんです」と大阪文化財研究所調査課の高橋工さん。「長原

古墳群に葬られた人たちは、渡来人の影響が非常に強いことがわかっています。大王家のもと、朝鮮半島と大阪の往来に関わった氏族の墓ではないかと思えます」。当時、朝鮮半島との往来といえは船。「この埴輪は、丸太をくりぬいた材を船底、板材を舷側に用いた準構造船を模したと考えられます」。見た目のバランスの悪さは「ナニワの埴輪職人によるデフォルメ」によるものだそう。



Information
大阪文化財研究所
今回紹介した「船形埴輪」は、大阪歴史博物館10階「古代難波の序章」に展示されている。木の漕ぎ船で海を渡った人たちの時代に思いを馳せてみよう。(1/26(土)から特別展「はにわ大行進」にて展示)。

重要文化財 船形埴輪(文化庁蔵・大阪歴史博物館保管)
手前は長原高廻り2号墳、奥は長原高廻り1号墳から出土。

お仕事 図鑑

大阪市立科学館

1989年、東洋初のプラネタリウムを導入した大阪市立電気科学館の後継施設として開館。「宇宙とエネルギー」をテーマに、世界最高峰のプラネタリウムと約2000点の展示物、サイエンスショーなどを通して、大人も子どもも楽しめる科学体験を提供している。 ※現在はリニューアルのための休館中。2019年3月30日に再オープン予定。

科学を好きになる 「化学反応」を起こしたい。

企画広報担当課長 小野昌弘さん

「科学館」というと、子供向けの施設と思われるかもしれませんが、実は来館者の半数以上は大人。お子さんと一緒に来た大人の方がハマってしまうこともあり、科学は誰でも楽しめる文化の一つだと実感します。

私の主な担当は化学。3階の「身近に化学」は、日本唯一の化学専門展示場です。鉱物や、塩・ミョウバンといった身近な結晶、金属やプラス



チックの素材と製品など、化学変化を起こす前後の状態がわかるよう工夫しました。化学の面白さは、モノの変化を解き明かしていくこと。例えば果物の甘さや酸っぱさも、太陽光を浴びた植物に化学反応が起きた結果です。自然界の成り立ちを知り「なるほど！」と膝を叩いてもらえたら、次の新しい疑問も生まれってくる。サイエンスショーや実験教室などでも、お客さん自身に「わかった!」という瞬間を味わってもらうことが一番です。特にサイエンスショーでは、大阪ならではのツツコミもいただきつつ、やりとりを工夫していますね。

現在、4階「宇宙とその発見」の展示替えも担当しています。新しい情報や知見を、最新の技術を導入した手法で見せる展示になる予定。来春のリニューアルオープン、どうぞ楽しみにしてください。

星の见えない大阪にこそ、リアルな星空体験を。

学芸担当課長 渡部義弥さん

世界に約4000あるプラネタリウムの中で、当館は7番目に大きいのはご存じですか? 「星が見えない大阪だからこそ、プラネタリウムを担当したい」と就職して以来、28年間プラネタリウム一筋でやっています。

東洋で初めて設置されたプラネタリウム投影機「ツァイスII型」から、1989年の科学館開館とともに、コンピュータ制御の機種になり、2004年に全天周映像システムと「インフィニウムL-O SAKA」を導入しました。そして今、再び老朽化した機器の入れ替えを行っています。新しい投影機により星の明るさはさらに向上。よりリアルな星空をギュッと圧縮してご覧いただけます。また、リ



験を確かめに来てください。当館には学芸員がつくるミニブックがたくさんあります。科学のこと、宇宙のことをご家庭や会社で話していたら、そこはミニ科学館になります。ミニブックを片手に夜空を見上げてみてください。晴れていればいつでも、本物の星を見られますから。

リレーエッセイ MUSEUMS TRIBUNE

第4回 有栖川有栖さん(ミステリ作家)

illustration: Kyoko Yamakuni

行くたびに発見があり、うれしくなる。何度行っても飽きず、楽しくて、いつそこに住めたらいいのに、とさえ思う。私にとって、大阪歴史博物館はそんな場所だ。企画展を楽しむにしているだけでなく、常設コーナーにも「行きたいな」と思いついた時に繰り返し足を運ぶ。見どころを挙げようとしたら、限られた紙面ではとてもではないが書き切れないのだが、お気に入りのポイントをいくつか書いてみよう。

まず、10階の〈古代フロア〉の演出が心憎い。難波宮の大極殿を再現したスペースでは、宮廷の儀式(難波宮が都となる詔が発せられるところ)を紹介する4分間のビデオが終わると、東に面した壁面が開いて光が射し込み、8分間、難波宮跡を眼下に見ることが出来る。

古の宮殿のイメージが強烈なリアリティを持って迫ってくるだけでなく、大阪城からあべのハルカスまでが視野に入るパノラマ風景も素晴らしい。生駒の山並みは近く、二上山まできれいに望めて、「この山々がなかったら、飛鳥・奈良と難波は完全に一体だったのだな」という感慨が湧いてきたりする。

9階の〈中世近世フロア〉はにぎわいに満ち、往時の様子を再現した大阪弁が飛び交っているのが愉快だ。文楽人形のキャラクター、浪花屋寅之助(船場の本店の若旦那なのだとか)の映像が各展示物



大阪にひたれる博物館。

を解説してくれるのだが、私が大好きなのは懐徳堂の紹介。大の大人が好きで通っている私塾だから、仕事や遊びの都合で遅刻するのにも中途退席するのも勝手である。その自由な風景を切り取っていることに感心する。「これやん、これが大阪や」と言いたいほどだ。中之島にあった広島藩の蔵屋敷の模型も興味深く、先日訪ねた折には「新しくできる大阪中之島美術館はこの跡に建つんやなあ」と見入ってしまった。

そして、7階の〈近代現代フロア〉に再現されているのは大阪が東洋最大の都市だったモダンな大阪の時代。難波・大阪はなんとユニークにして華麗な変遷をたどっているのか、とその歴史に接して誇らしい気分がひたれる。

余韻とともにエスカレーターを下り、博物館の外へ出ると――そこは、悠久の歴史の最先端。今もなおダイナミックに躍動している「最新の大阪」なのだ。いつもそれを喜びながら歩きます。



ミュージアム用語集

その4

【大阪中之島美術館】

大阪中之島美術館準備室室長の菅谷富夫さんに聞きました。

2021年度、中之島に「大阪と世界の近代・現代美術」をテーマにした新しい美術館がオープンします。

新美術館の構想が始まったのは昭和58年(1983)。大阪生まれの画家・佐伯祐三の名作31点を含む、山本發次郎コレクションの寄贈がきっかけでした。平成2年(1990)から、本格的な収集活動を行い、約4600点のご寄贈と、モデリアーニの裸婦像など約1000点の購入により、質量ともに充実したコレクションを所蔵するに至りました。

新しい美術館の名称は公募を行い、1681件にのぼるご応募をいただき「大阪中之島美術館」に決定しました。長く使われていくのにふさわしい名称だと思っています。また、水都大阪のシンボルエリアでもある中之島の名前を冠することで、中之島というエリア全体のブランディングにもつながるのでないでしょうか。開館をどうぞ楽しみにお待ちください。



ここにしかありません。

大阪市立美術館の「十二支絵葉書」

新年のご挨拶、あるいは遅くなった賀状の返事には、気のきいた絵葉書を選びたいもの。ミュージアムグッズとはいえ、大阪市立美術館の「十二支絵葉書」(全12枚・各100円)は、そんな時にぴったりの1枚です。出典は『十二類合戦絵巻』という御伽草子。十二支の動物たちが、月をテーマに雅やかな歌合わせをしている場面から選ばれています。動物たちのしなやかな所作、着物の着こなしはなかなかのもの。きっともらった方にも喜んでもらえると思います。



◎次号の特集テーマ「過ごす」2019年2月下旬発行予定

「OSAKA MUSEUMS」では、大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪文化財研究所、大阪市立科学館を中心として、大阪市の博物館・美術館の魅力と情報を紹介しています。

主な設置場所／大阪市内の各種情報センター、交通施設、文教施設、観光事業者、ホテル、複合商業施設、区役所ほか

2018年12月10日発行 発行／公益財団法人大阪市博物館協会
〒540-0008 大阪府中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内 tel. 06-6940-0550
企画・編集／株式会社140B 撮影／西岡潔(大阪市立美術館) 浜田智則(大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立科学館) デザイン／ツムラグラフィック 中務慈子 取材／杉本恭子